

土砂災害警戒箇所点検マップ (伊根地区・大原、新井)

図面上の勾配等から想定した警戒箇所が図示されており、急傾斜工事等実施済みの箇所も含まれています。
集落外(住家のない場所)については、図示されておりませんので、「警戒箇所が図示されていないから安全」ということではありません。

どんなところが要警戒なの?

こんな地形のところが要警戒です。
身のまわりにある要警戒の箇所を点検してみてください。



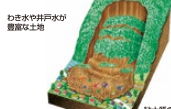
【急傾斜地】



【土石流】



【地すべり】



道路の橋脚や石垣などにずれを生じている土地
冠水等の危険のある土地
上流の川に樹木の根が朽れつから10年以内Kの浸流

大雨が降ってきたら?

大雨が降り出したら、気象情報などさまざまな情報に気を配り、危険を感じたらできるだけ早めに避難しましょう。

① 気象情報などに気を配りましょう

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。天気予報や台風情報に注意しましょう。また、近所の方々などにも連絡を取り合しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

② アレッ!と思ったらすぐ避難しましょう

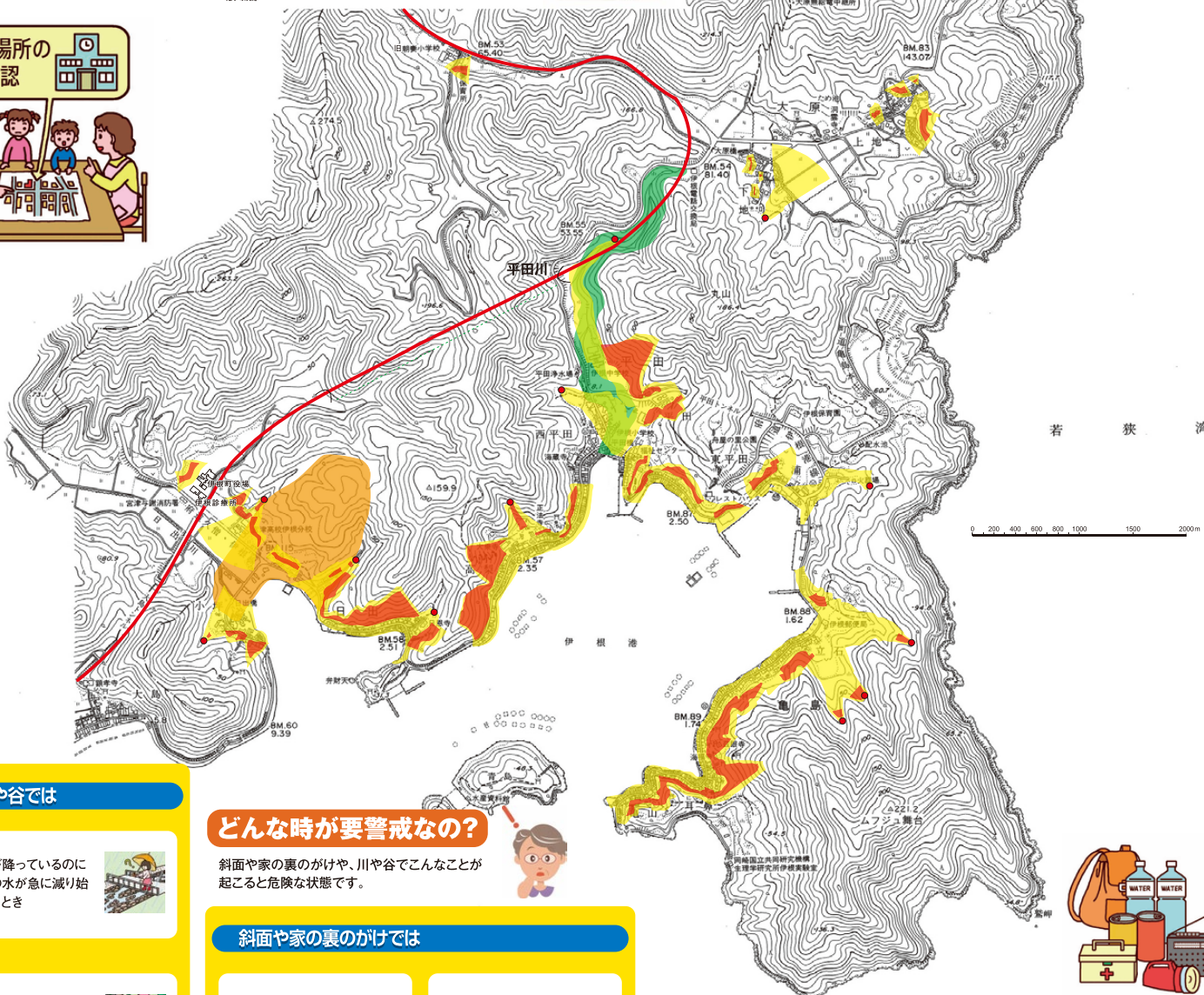
大雨警報、土砂災害警戒情報及び特別警報などが出されている時は、自宅の周辺を再点検してください。少しでも危険な前兆現象を見たり聞いたりしたらすぐに避難しましょう。

③ 隣近所で協力しましょう

隣近所で声を掛け合って、集団で避難しましょう。お年寄りや体の不自由な人、子供を優先して避難しましょう。



避難場所の確認



川や谷では

雨が降っているのに川の水が急に減り始めたとき

川の流れが急に濁ったり、流木がたくさん流れてきたとき

山全体がうなるような音(山鳴り)がするとき

どんな時が要警戒なの?

斜面や家の裏のがけや、川や谷でこんなことが起こると危険な状態です。

斜面や家の裏のがけでは

がけから小石がバラバラと落ちてきたとき

井戸水や沢の水が濁り始めたとき

家、地面、よう壁、斜面にひび割れができたとき

斜面やがけから水が急に噴出したとき



危険箇所の種類	危険箇所の説明	凡例
土砂災害警戒区域	住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域	● 氾濫開始点
土砂災害特別警戒区域	建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域	● 氾濫開始点
地すべり危険箇所	地形と地質を分析し地すべりの発生が想定される箇所	
砂防指定地	土砂が流出することによりおこる土砂災害を防止するために国土交通大臣が指定した土地	